



芝山小だより



冬休み号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

## 体験を通して

校長 寺井 俊敬

8月30日(火)から始まった2学期が本日で終わります。まだまだコロナ禍での教育活動ということで、制約は続いています。今学期は運動会、音楽会といった行事を行うことができました。また、学年ごとの校外学習を行うことができました。さらには、以前『芝小まつり』と言っていた特別活動も、『芝小交流会』として、1組グループ2組グループの2日間に分けて、楽しい行事を行うことができました。

コロナ禍前と同じ、というわけにはいきませんが、日常の授業においても、工夫をしながらグループ活動、話し合い等を行っています。保護者・地域の皆様のご協力のもと、漢字検定、サタデースクール、花を植えようの活動等も徐々に広げて行っています。いずれも保護者の皆様のご協力もあり、子供たちにとって、達成感を味わいながら次の活動への意欲のもてるよい学びの機会となっています。感謝申し上げます。

これから冬休みになります。同じ休業日でも、冬休みは夏休みや春休みと少し様子が違います。それは休業期間中に新たな年を迎えるということです。昨年、一昨年よりは親戚に会うご家庭も多いかもしれません。全員とはいきませんが、そのような機会がありましたら、子供たちには元気に挨拶をしてもらいたいと思います。普段はなかなか会えない子供たちが元気に挨拶をしてくれたら、親戚の方々もきっと喜ぶことでしょう。

ところで、毎年、3学期になると1年生が、生活科で昔あそびを体験します。学校では、かるた、こま、だるま落とし、凧あげ等を行います。今は、デジタルの時代です。コンピュータやスマホ、テレビゲームで遊ぶことができます。しかし、昔はコンピュータもスマホも、テレビゲームもありませんでした。新しいものには新しいよさがあります。一方、昔あそびのように、古いものには古いもののよさがあります。『かるたはどうしたら勝てるだろう』『こまはどうしたら長く回せるだろう』等と考えます。しかも、お正月という家族や親戚の方々が集まる時に行うことで、人とのかわりを学びます。時代の流れで、デジタル化がますます進んでいくでしょう。しかし、日本人が大切にしてきた昔の習慣も残していきたいと思います。お正月を迎えるこの時期、時代は変わっても、子供たちには、昔あそびを少しでも味わってほしいと思っています。そして、体験を通して日本の良さを実感し、たくましく育てほしいと願っています。

本日、終業式で子供たちに、交通事故、不審者に注意することを話しました。また、困ったときには、近くの大人の人に相談するように話しました。3学期始業式、冬休みで成長した子供たちの元気な姿を見られることを楽しみにしています。1年間、本校の教育活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。

(学校ホームページ「令和4年度校長室より」は、本日分掲載で、今年が最後です。2023年は、1月10日(火)から再開予定です。学校ホームページ「令和4年度校長室より」も、ぜひご覧ください。)